

日本語で読める文献案内

- 5535 プラトン
プラトン (種山恭子訳) 『ティマイオス』 (『プラトン全集12』, 岩波書店, 所収)
プラトン (藤澤令夫訳) 『ソピステス』 (『プラトン全集3』, 岩波書店, 所収)
- 5540 エピクロス
出隆, 岩崎充胤訳 『エピクロス - 教説と手紙 - 』, 1959(1980), 岩波文庫
- 5545 ルクレティウス
ルクレティウス (樋口勝彦訳) 『物の本性について』, 1961(1985), 岩波文庫
ルクレティウス (藤澤令夫他訳) 『物の本性について』 (泉井久之助, 藤澤令夫他訳 『世界古典文学全集21, ウェルギリウス, ルクレティウス』, 筑摩書房, 所収)
- 5550 デカルト
ルネ・デカルト (山田, 吉田, 久保田, 岩佐訳) 『哲学原理』, 2009, ちくま学芸文庫
デカルト (野田又夫編) 『哲学原理』 (『世界の名著, デカルト』, 1976, 中央公論社, 所収)
- 5555 ライブニッツ
ライブニッツ 「実体の本性及び実体の交通並びに精神物体間に存する結合についての新説」 (ライブニッツ/河野与一訳 『单子論』, 1951(1977), 岩波文庫, 所収)
- 5560 ニュートン
ニュートン (河辺六男訳) 『自然哲学の数学的原理 (プリンキピア)』 (『世界の名著, ニュートン』, 1971, 中央公論社, 所収)
- 5565 ラッセル
ラッセル (石本新訳) 『外部世界はいかにして知られるか』 第4講 「物理学の世界と感覚の世界」 (山元一郎責任編集 『世界の名著, ラッセル, ウィトゲンシュタイン, ホワイトヘッド』, 1980, 中央公論社, 所収)
- 5570 アレクサンドル・コイレ (横山雅彦訳) 『閉じられた世界から開かれた世

界へ』, 1969, みすず書房

ポアンカレと規約主義

ポアンカレ (吉田洋一訳) 『科学と方法』, 1953, 岩波文庫

5575 ポアンカレ (河野伊三郎訳) 『科学と仮説』, 1959, 岩波文庫

ポアンカレ (吉田洋一訳) 『科学と価値』, 1977, 岩波文庫

カルナップの道具主義

R.カルナップ「理論的概念の方法的性格」(カルナップ/竹尾治一郎, 永井成男訳) 『カルナップ哲学論集』, 1977, 紀伊國屋書店, 所収)

5580

デュエームのホーリズム

デュエーム (小林, 熊谷, 安孫子訳) 『物理学の目的と方法』, 1991, 勁草書房[第2部第4章, 第6章]

5585

クワインのホーリズム

W.V.クワイン「経験主義の2つのドグマ」(クワイン/飯田隆訳) 『論理学的観点から』, 1992, 勁草書房, 所収)

5590 クーンのパラダイム転換

T・クーン (中山茂訳) 『科学革命の構造』, 1971, みすず書房

ハンソンの理論負荷性

N.R.ハンソン (村上陽一郎訳) 『科学理論はいかにしてうまれるか』, 1971, 講談社[*Patterns of Discovery*の訳]

5595

パットナム, 形而上学的实在論について

H.パットナム (野本和幸他訳) 『理性・真理・歴史』, 1994, 法政大学出版局

5600

5605

5610

理神論 (deism) について

5615 deismo s.m. Dottrina religiosa che nega la validità della rivelazione storica e di qualsiasi forma di Provvidenza, ma ammette l'esistenza di Dio come garante dell'ordine naturale. [// *Nuovo Zingarelli, minore*, 1987, Bologna]

理神論 (自然神論) . 宗教に関する教説 (立場) で, 歴史的な啓示の有効性とどんな形式であれ摂理 (神意) を否定するが, 自然の秩序を保証するものとしての神の存在は認める.

5620 Deismus, der; - [zu lat. deus(Gen.: dei) = Gott]: Gottesauffassung der Aufklärung, nach der Gott die Welt zwar geschaffen hat, aber keinen weiteren Einfluß mehr auf sie ausübt. [*Duden, Deutsches Universal Wörterbuch*, 1983, Mannheim; Wien; Zürich]

5625 理 (自然) 神論. 啓蒙 (期) の神把握で, それによれば, 神はなるほど世界を創造したが, それ以上に世界に対して影響を及ぼさない.

5630 déisme. - dér. du lat. deus, Dieu. Doctrine de ceux qui, tout en rejetant le Dieu de la rélévation, admettent, en se fondant sur les seules données des facultés naturelles, l'existence d'un être suprême dont la nature reste assez indéterminée.

[Paul Foulquié, *Dictionnaire de la langue philosophique*, 1962, Paris]

5635 理神論 (自然神教) . 神から啓示を退けながら, 自然 (生まれつき) の能力だけに基づいて, その本性はまったく未規定なままであるような至上者 (=神) の存在を認める人々の教説 (立場) .

5640 deism n. the belief in a god whose existence can be proved by looking at the world he made rather than by considering some message he delivered to man personally. [*Longman Dictionary of Contemporary English*, 1978, Harlow and London]

5645

5650